

今日の力

テキサス州 ネーデルランド

3月19日(火)

すべての御恵みのみなもと

聖書朗読 詩篇 23編

すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。

ヤコブ 1:17

2016年、イスラエルを旅したとき、青々とした緑の谷と乾燥した砂漠の対比を見る機会に恵まれました。羊飼いの主が、主の羊をいこいの水のほとりに連れて行ってくださるという今日の聖書の箇所の中に、私は同じような光景を見ます。羊飼いは、しばしばわずかな水を見つけるために、羊の群れを何十マイルも誘導します。

すべての緑の谷は神様からの贈り物であることを、ダビデは確信していました。水の1滴はすべて天の恵みであり、すべての敵を神様が打ち負かし、すべての道が安全へと導いてくれます。過去において神様がダビデを祝福してくださったので、未来においても祝福してくださることをダビデは知っています。『まことに、私のいのちの日の限り、いつくしみと恵みとが、私を追って来るでしょう。』

すべての物質的恵みを、神様からの贈り物だと思っていますか？ それとも、自分の努力で得たものだと思っていますか？ 神様があなたに今日の次の日を用意してくださっていることに、毎日感謝していますか？ 『主のみこころなら、私たちは生きていて、このことを、または、あのことをしよう。』(ヤコブ 4:15)と言うべきであると、ヤコブは教えています。主はダビデを祝福されたように、あなたと私を同じように祝福し続けてくださっています。

讃美歌 354

祈り 親愛なる主よ。すべての御恵みのみなもとでいらっしゃることをたたえま
す。私の器は御恵みであふれています。あなたからいただいている御恵みをほかの人たちに伝えるために用いることができますように、今日、私に強さを与えてください。

イエス様の御名において。アーメン。

ジェームズ・ヘイズ

テネシー州 プレザントビュー

3月20日(水)

赦しの描写

聖書朗読 詩篇 32編

そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち帰りなさい。
使徒の働き 3:19

神様への賛歌の作者として、また讃美する者として、ダビデは自分の視覚と音のセンスで賛歌を書きます。ダビデの言葉は、まるで目にすることができるかのような絵を描き出します。

この昔の詩人は、神様に赦されることに身震いして感激しています。何を赦していただくのでしょうか？ 異なるヘブライ語を用いるなら、ダビデはさまざまな罪のラベルを貼られています。たとえば犯罪、道義的な罪、不正、欺きなど。どんなに悔い改めたとしても、神様の赦しを超えるほどの悔い改めはありません。わざとでも、ついうっかりでも、墮落した性格のせいでも、偽善的行為からでも、とにかく私たちが罪を犯したとき、神様は悔い改める者を赦してくださいます。

悔い改める前のダビデは骨々が疲れ果て、彼の強さはかわききり、うめいていました。5節が転換点です。ダビデは自分の罪を告白し、そのことによって、彼の罪は赦されました。「それゆえ」、ダビデはみんなに祈りと罪の告白を勧めます。

3つの段階を想像してみましょう。一段階目は自分が犯した罪を隠すことの痛み、二段階目は罪を告白する、三段階目は喜びを叫ぶ救いの歌と子どもたちに囲まれている神様です。

讃美歌 第二編 188

祈り 主よ。ダビデのころ、彼の経験、彼の文学的才能を用いてくださいましたことと、私たちがあなたを思い描く霊的な経験を感謝いたします。あなたからいただいている自分の賜物をあなたのために用いることができますように助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

リネット・カルナハン

テネシー州 ロックフォード

3月21日（木）

喜 び

聖書朗読 詩篇 40：8～17編

わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。 ヨハネ 15：11

イエス様 Jesus, みんな Others, 自分 Yourself——この順番です。この3つの頭文字を並べると、JOY（喜び）になることを日曜学校で学びました。それ以来、この考え方がずっと頭にありました。難しいのは、それを実行することです。イエス様の喜びは、父なる神様に完全に従うことにあり、同じように、私たちの喜びも、自分やこの世の娯楽ではなく、そういったことよりも前にイエス様にいていただくことにあります。そして、喜びと幸せを混同しないようにしましょう。昨今は、みんな幸せになることに躍起になっています。でも、神様が私たちに求めているらっしゃる優先順位は何でしょう？

神様は私たちに信仰深くあること、そして神様との正しい関係を求めることを望んでいらっしゃいます。詩篇40：8は、神様との正しい関係を築くスタート地点を示しています。それは『私はみこころを行なうことを喜びとします』ということです。私利私欲を捨てて、神様に全身全霊で従うことが私たちの出発点です。自分の意思ではなくみこころを行なうことが、神様との正しい関係を築くことであり、喜びを得ることになります。イエス様が主であると心から宣言するときのみ、私たちは神様が私たちに注いでくださる喜びと、そして『生ける水の川』（ヨハネ7：38）が私たちのうちに流れ出す喜びを体験するのです。

讃美歌 288

祈 り 御恵み深い愛なる神様。イエス様を心からご信頼して生きる強さと勇気を与えてください。そして、私たちの喜びが、イエス様があなたに従った喜びと同じになりますように。

イエス様の御名においてお祈りします。アーメン。

ジェイムズ・ウッドロウ

カリフォルニア州 レドンドビーチ

3月22日（金）

何をあなたは望むのか？

聖書朗読 詩篇 42：1～11

神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。

ヤコブ 4：8

老いも若きも皆、望みを持っています。子どもならばバスキンロビンズのアイスクリームや7月4日におばあちゃんのピーチパイを食べたいと思うかもしれません。私たちが結婚したころ、夫はV8エンジンのマスタングを欲しがっていました。

激しい渇きや満たされない思いは精神的な負荷となります。詩篇42編ではダビデは主の臨在を『鹿が谷川の流れを慕いあえぐように』望んでいます。失望の内に彼は主に問いかけます。『いつ、私は行って、神の御前に出ましようか。』『わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。』『なぜ、あなたは私をお忘れになったのですか。』

しかし彼は、喜びと感謝の気持ちは主が与えてくださったものであると思い出します。主の恵みの記憶を頼りに、彼は『神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。』と答えを導き出したのです。

ダビデがしたことは、私たちが弱ってしまうような深刻な渇きを抱えていた時にどうすべきかを示してくれています。渇きではなく、神にこそ注目するのです。福音を読み、福音を覚え、賛美することで、私たちの求めるものが手に入ります。ダビデにならって、『義に飢え乾くものは幸いです。その人たちは満ち足りるから。』（マタイ5：6）ということ覚えてみましょう。神は必ずその渇きに答えてくださいます。

讃美歌 鹿のように

祈 り 神様。常に私たちの事を覚え、共にいてくださることに感謝いたします。あなたの憐れみと慰めに感謝いたします。悩める時に助け導いてくださることに感謝いたします。あなたの思いに沿えるように私たちが満たされ、良い行いが出来るようにしてください。

イエス様の御名によってお祈りします。アーメン。

ジェイニス・グリーンリーフ

アラバマ州 ハイイツビル

3月23日（土）

最期まで主の栄光を示し続ける

聖書朗読 詩篇 71：14～24

年老いて、しらがになっても、神よ、私を捨てないでください。私はなおも、あなたの力を次の世代に、あなたの大能のわざを、後に来るすべての者に告げ知らせます。 詩篇 71：18

アメリカでは1日につき1万人以上の方が60歳を迎えると言われています。年老いる魅力の一つとしては「若者に今までしてきたことをやってもらう」ということがあるのかもしれません。しかし主への奉仕には引退は存在しないように思えます。『死に至るまで忠実でありなさい。』（黙示録 2：10）にもそう書かれています。現実的には勝手に奉仕からの卒業してしまう人もいらっしゃると思いますが。

神様の最も忠実なしもべたちは老年まで神様に長く仕え続けました。約束の子イサクを授かったとき、アブラハムは100歳、サラは90歳でした。モーセが主に仕えて多くの活動をしたのは80代になってからのことです。カレブが「どうか今、主があの日約束されたこの山地を私に与えてください。」と堂々と話したのは85歳のときです。女預言者アンナが断食をし、昼夜を問わず神に力強く仕え続けたのも、どんなに若く見積もっても84歳を超えてからの事です。実際、神様はすべての人が、自らの与えられた才能を生かし、毎日、年齢に関わらずに仕えることを望んでおられるのです。

今日の聖書箇所にもなっている詩篇はあなたを勇気づけ、最後の時まで奉仕する気持ちにさせてくれるかもしれません。さあ、あなたの望みはなんですか？

讃美歌 39

祈り 天にいますお父様。恵みに感謝いたします。私たちがその最期の時まであなたに力強く仕え続けることが出来るようお守りください。

イエス様の御名によってお祈りします。アーメン。

マーク・R・ガイ

オハイオ州 ウェスト・キャロルトン

3月24日（日）

賛美の力

聖書朗読 詩篇 92：1～15

主に感謝するのは、良いことです。

詩篇 92：1

市販食品は1日の始め方を売りにしたものがあります。子どもの時、1日のスタートをしっかりとされるように作られたシリアルや栄養ドリンクがあったことを覚えています。大人になった今でも極上コーヒーや栄養満点の朝食といった食品広告に魅了されています。このような商品は得てして、新しく、進歩した、重要であるのだと主張し、私たちが買うことを迫ってきます。良いスタートをきるというのは私たちを魅了する何かを持っているのでしょうか。

しかし神様に頼る1日の始め方はなんにも新しくなく、また変化するということもありません。たくさんの霊的栄養はすべてがたった2つの密接にかかわった要素によってつくられています。祈りと賛美です。

祈りは賛美なしでは行うことが出来ませんし、賛美は祈りに命を与えます。賛美と祈りが私たちに日々を生きる活力と目的を与えてくれるのです。

神様の憐れみ、恵み、慈しみに応答することこそが1日の始め方としては最善のものでしょう。このことはただ良い1日のスタートを切る、ということだけでなくその日私たちを待っている多くの困難と、ひょっとしたらあるかもしれないイライラする出来事を乗り越えるために必要となるのです。

讃美歌 讃美歌21 24

祈り 天にいます父なる神様。私たちをいつも守ってくださることに感謝いたします。日々私たちを力強く導いてくださることに感謝いたします。

信じますイエス・キリストの聖名を通してお祈りいたします。アーメン。

ミシェル・A・ブラウン

アラバマ州 ハンツビル